



## 平成28年 氷川町成人式 新たな決意を胸に 新成人148人の門出

1月3日、文化センターにおいて、平成28年氷川町成人式が行われ、新成人124人（対象者148人）が出席しました。新成人代表の実行委員で準備・運営された式典は、各中学校の卒業記念DVD上映で懐かしい思い出がよみがえるとともに幕が開き、藤本町長からは「これからの日本の未来を託された若者として、仲間を尊重し、お互いに励まし合い、自らの可能性を追求し、社会で成長活躍されていくことを期待しています」と式辞が述べられました。恩師によるスピーチ、新成人代表による誓いの言葉の発表なども滞りなく行われ、懐かしい恩師や級友との再会に、笑顔があふれる晴れやかな門出となりました。

### 新成人代表から力強い誓いの言葉 恩師からは温かいメッセージが伝えられました

#### 新成人「誓いの言葉」

齊藤 舞（中網道）

今、ここにいる124名は成人という大きな節目を迎えています。その新成人一人一人が、社会人としての決意を新たにしていることでしょうか。

私は、専門学校で言語聴覚療法学科に所属しており、子どもから大人まで障がいを持たれている全ての方々に関わる「言葉や耳の聞こえ、のみ込み」に関する訓練やリハビリテーションについて学んでいます。

私が人に関わる仕事がいいたい、人を助ける仕事がいいたいと思うようになった理由の一つにこの氷川町で育ったことが挙げられます。

幼いころから家族だけでなく、近所の方々にたくさんの愛情を注いでもらい、今日まで生きてきました。この町は、人と人とのつながりが強い町だと感じます。だからこそ、人に関わり、助ける仕事がいいたいと思うようになったのです。

これからの人生には模範解答がありません。つまり、人の数だけその道が開かれています。

これまでお世話になった全ての方々から身に付けた知識と

判断力を駆使し、生涯を掛けてその答えを探し求めます。その際に、幾度となく社会からの洗礼を受けることでしょうか。しかし、私たちには自慢の故郷があります。その故郷で出会った仲間がいます。出合いは財産であることを胸に刻み、これからも堂々と生きていきます。

最後に、この氷川町で学んだ全てを人生の糧とし、社会の一員として地域発展の一翼を担っていくとともに、人と人とを結び、新しい地域社会の創造に貢献できる社会人となるよう、日々精進していくことを誓い、新成人代表のあいさつとさせていただきます。



元 竜北中学校3年1組  
担任 吉村美和先生

皆さんに私から2つの言葉を贈りたいと思います。

一つは、亡くなった父が皆さんと同じころ私に言ってくれた「自由と責任」という言葉です。「もう大人だから、いろんなことを自由に決めていい。しかし、決めたこと、言動に責任を持ちなさい」父が大人として認めてくれたことがうれしかったですし、大人としての一歩を踏み出す責任の重さを痛感しました。

もう一つ「同級生は一生同級生」という言葉です。戦時中、毎日死と隣り合わせの生活をしてきたという方の言葉です。遠く離れていても心の支えになるのは家族だし、同級生が支えになったということをおっしゃっていました。

私の人生を振り返っても、悩んだ時、つらい時に相談に乗ってもらったのは、やっぱり自分の近くにいる仲間だったという風に思います。

これから皆さんは、目標や大きな夢に向かって努力されていくことでしょう。そんな時に、家族の支えや同級生の支えに感謝しながら、これから先も豊かな人生が送れるよう頑張ってください。



元 竜北中学校3年3組  
担任 宮田祐子先生

昨日あった同窓会の話です。小学校の時の恩師も来られました。「人生長かったですね。まだいっぱい出会はあります。人生いろいろだけんぞ」と毎回話されます。

先生から見ると、私はまだ12歳の祐子ちゃんなんです。

昨日、そんなことがあって思ったのは、同じ時間、同じ空間の中で、共にいろんな事を味わい、経験しながら過ごしてきた人たちがいるのは、いつまで経っても、つながっていられるのだなということでした。その場、その時、一緒に過ごす人と顔を付き合わせながら話をし、つながっていくこと。それが一番大事ではないかなと思っています。

皆さんには、今日を機会に人との関わりをまた結び直してもらいたい。作り上げてもらいたいと思っています。

これから皆さんは、いろんな面で活躍をされると思います。近くにいても、遠くにいても皆さんのことは覚えていきます。それぞれの場所でそれぞれの力を発揮して、活躍をされることを願っています。



元 氷川中学校3年1組  
担任 西 陽平先生

卒業から5年が経ち、まだ幼かった君たちがたくましく、美しく、立派な成人の姿になっているのを見て、とてもうれしく思っています。

大人になって一番気を付けてほしいことは健康です。

すでに家庭を持っている方もいると思いますが、大切な人と出合い、子を授かり家庭を築いていくと思えます。

この年になると同窓会で会えない同級生も出てきます。

私は今、健康が一番大事だとつくづく思っています。

まずは健康を第一に、元気にこれからも生きて行ってほしいと思います。

これからのふるさと氷川町を引っ張って行く、新成人の皆さん、氷川プライドを忘れず、ふるさとに誇りを持ち、精一杯頑張ってください。



元 氷川中学校3年2組  
担任 池上 藍先生

皆さんどの思い出として残っているのは、体育大会や学習発表会などに燃えて頑張ったことです。失敗もありましたが、一生懸命やると後悔は無いということを今になっても思っています。一生懸命やると涙が出るくらい感動を味わうことができると。一度きりの人生だから感動の多い人生を送ってほしいと思います。

皆さんに私が大切にしている「二期一会」という言葉を贈りたいと思います。

一期一会は茶道の言葉で「出合いを大切にしない」という意味もありますが、日頃毎日会っている人、前から知っている人と過ごす時間も、初めて会う人の時間と同じように「この瞬間は二度と帰ってこないのだから、大事にしない」という言葉だそうなんです。

ぜひ、人と人とのつながりを大切に、今この瞬間を大事に生きていってほしいと思います。



元 氷川中学校 特別支援学級  
担任 木原まゆみ先生

皆さんの顔を懐かしく思いながら見ていましたが、すてきな大人に成長した皆さんに再会することができて、うれしく思います。

国語の教科書に「握手」という小説があります。その中で恩師が主人公に向かって、つらい時、うまくいかない時は思い出してくださいという言葉で「困難は分割せよ」という言葉があります。

これは生徒たちだけじゃなく、これを読む人みんなに向けての言葉じゃないかなと私は解釈して、焦らずちよとずつ片付けて行こうという風に考えることにしています。

皆さんも、これからつらいこと、うまくいかないこともたくさんあると思いますが、そんな時は焦らず、心の片隅にこの言葉を置いて、それぞれの持ち味を生かして、活躍して行ってほしいなと思います。これからも応援しています。体気を付けて頑張ってください。